

Kawagoyan News

Kawagoe-Salem Friendship Society

C/o Y. Iwaki

2-1-8 Shinden, Kamifukuoka City 356-0033

No.56

Phone 049-262-0205

2001.7.30

<http://www.tiu.ac.jp/~bduell/KSFS/indexJ.html>

前号に引き続き、4月14日の親善協会15周年関係の記事と、スプレーグ高校生受け入れレポートを紹介します。

川越セーレム親善協会 15周年記念式典

式典ではご来賓の川越舟橋市長代理国際交流室盛田室長、川越姉妹都市交流委員会立原副委員長、オッフエンバッハ・クラブ広瀬会長、東京国際大学国際交流部金子副部長、川越博物館田中館長より当協会のこれまでの活動を高く評価されてのご祝辞を戴きました。それに続き、ドゥエル会長より「協会15周年の歩み」と題するお話がありました。

さて、市長祝辞（代読）は全文が掲載されていますので省略し、国際交流にこれまで深くかかわってこられたご来賓の皆様とドゥエル会長のお話の一端をご紹介します。

立原氏は川越・セーレム姉妹都市の調印式にご出席なさるなど、常に国際交流の第一線でご活躍、セーレム市と川越市立中学生の交流にも関わっておられます。

広瀬氏は元広瀬病院院長として川越市民には広く親しまれている先生ですが、学生時代にすでにアジア青年連盟でご活躍されるなど青年期より国際交流に深く関心を持たれ、18年前の川越市制60周年にあたり、川越市長と共に川越にあるドイツの大会社ヘキストの地元に近いオッフエンバッハ市と姉妹都市の関係を結ばれました。川越とセーレムの姉妹都市制定の3年前になります。国際交流の基本は相手を理解しようと言う心構えと寛容さと強調されておられました。

金子氏によればセーレム市にある Willamette 大学と TIU（東京国際大学）の交流は昭和40年（1965年）に溯り、以来多数の JSP（Japan Study Program）の学生を毎年受け入れているとの事です。

私たちの知る限りでも、TIUではTIUアメリカ校を創立し多数の学生をセーレムに送り、川越の多くの家庭ではJSPの学生のホームステイを受け入れています。また川越市の中学生交流、当協会のセーレム高校生受け入れなど考えると、まさに川越では川越市民あげてのセーレムとの交流をしていることになります。

お話の最後に、今後も当協会の為ご協力頂けるとの有り難いお言葉を頂きました。

余談ですが、Duell 会長も JSP の学生として来日、その後 TIU 教授、川越セーレム協会会長としてだけでなく広く文化の担い手としてご活躍の事は皆さんご存知の通りです。

田中氏にはセーレムからの高校グループ来日の折りにはいつも格別のお骨折りを戴いて

おりますが、「我々自身が川越の理解と知識を深め、それを国際交流に役立てるためにも川越博物館を利用してほしい。」と話されておりました。

今でこそ、国際交流は身近になりましたが、そのはるか以前から国際交流の重要性に目を向け実践してこられた歴代の川越市長さんと市職員の皆様、TIUの教職員の皆様、多くの市民の先見の明に心よりの敬意の念を禁じられませんでした。

最後に会長より、日本人が1890年にセーレムに移民として来た事、セーレムのパイオニア墓地には1895年に亡くなられた静岡県出身の方のお墓がある事などの日本・セーレム交流の歴史に始まり、御自身の日本留学体験、国際大での公開講座、セーレムホームステイツアー、旅行記、かわごやんニュースなどを通して当協会の15年の歩みをご説明がありました。

Beyond the KSFS 15th Anniversary

by Barry Duell

Chair, KSFS

The Kawagoe - Salem Friendship Society began in 1986 primarily as a grassroots group for conducting exchange between Kawagoe and its sister city Salem, Oregon, USA. Through our activities, Kawagoe people have visited Salem, KSFS has hosted Salem people in Kawagoe, and we have conducted a broad range of activities in Kawagoe involving people from many countries including international students attending Tokyo International University. KSFS has also published a number of materials including our Kawagoyan Newsletter, the now defunct annual Kawagoyan report on KSFS activities, the travelogue series documenting the visits of the more than 200 people we have taken to Salem for homestays, and most recently a report by Mr. Mizukami recounting his two years in Salem.

The breadth of KSFS activities is reflected by the special visitors who accepted to help us celebrate our 15th anniversary April 14: Mr. Morita, Director of the Kawagoe Office for International Exchange, represented Kawagoe Mayor Funabashi; Mr. Tachihara, Vice Chair of the Kawagoe Sister Cities Committee represented Mr. Sekiya, Chair of that committee; Dr. Hirose, Chair of the Offenbach Club (another Kawagoe sister city is Offenbach, Germany); Mr. Tanaka, Director of the Kawagoe Museum; and Mr. Kaneko, Director of the TIU Office for International Exchange. These people and organizations have all been a great aid to KSFS in implementing its international exchange activities. Likewise, KSFS has been honored to have had many opportunities to help Kawagoe with its official Kawagoe-Salem exchanges.

As we begin this new millennium, the opportunities for international exchange in Kawagoe continue to change. Kawagoe is scheduled to open a new International Exchange Center in July 2001 in a building now under construction near Kawagoe Station. As the new facility will also contain a branch of the Kawagoe Library, a multipurpose room, and so on, this will broaden the types of exchange that can be conducted. The Exchange Center will provide a central focus to the international activities currently being conducted by groups throughout Kawagoe.

Kawagoe's new Exchange Center will provide KSFS a chance to cooperate even more with other groups having similar goals in promoting international exchange. The Center will also allow more interaction with not only foreign visitors, but also with the more than 3,000 foreign residents of Kawagoe.

Let us continue trying to make our activities relevant to the needs of our community and our members.

セーレムからのお客様

佐藤芳子

今年もセーレム市スプリング高校からスーザン・タナベさん引率の一行13人が、3月27日～29日、三度目の来川をされました。前回と同様、和歌山、京都、広島から川越へ、そして東京見学をされました。

川越では我が川越セーレム親善協会会員の時枝、岡田、落合、世古口、志村、池田、斉藤、小倉、佐藤宅で2泊ホームステイをしました。

我が家でも野菜ぎらいのShokiくんシーフードがだめなRichard君が泊まりました。野菜と魚が常食の我が家は、困ったなカレーにしまえば野菜がわからないだろうと「今夜は私の好きなインドスタイルよ」と、タンドリーチキン（インチキですが）とカレーを強引に。インド旅行のアルバムと共に二人は「おいしいー」。

3月28日は、川越女子高校で若者どうしの交流を。旧校舎の大和室で箏曲部の演奏をバックに茶道部のお手前、かしこまった女子高生の前で正座させられたのはよい経験だったでしょう。午後は、英語部員と市役所訪問、グループで自由に市内めぐり、夕方、校門の桜並木の下でお別れ。メール交換の約束をしたり、今後お互いにより交流のきっかけになったようです。

家で楽しかったのは息子が動物占いの本を出し、二人の性格を当てたり未来を占ったりしたことでした。大笑いでした。

大きな二人を泊めるには、お仏壇を閉めたり、池田さんからお布団を借りたり、スペース作りがちょっと大変。でも数日後には同市からJohnson 夫妻も来日し、五日ほど滞在し

ました。

田中先生の講演会に参加して

6月30日(土)午後1時30分から、東京国際大学第1キャンパスで、同大学元教授の田中昌先生の「英語の学び方」についての講演会が開かれました。

英語については現在、主に英語会話をNHKのラジオ・テレビで勉強中ですが、一向に上達せずに悩んでいたところなので、期待をして参加しました。講演内容は英語を学ぶ目的、単語の覚え方、リスニング、会話のコツ、発音など英語上達の方法全般に渡りました。深い知識と体験をもとに実例を多く取り入れ、目線を低くし、平易に説明されました。どの項目も大変興味深く参考になりました。いくつかを紹介します。

- ・ NHK ラジオの英語ニュースを聞く。事前に知っているニュースを英語で聞けるので理解力向上につながられる。
- ・ ラジオ、テレビの英語番組は、いろいろ聴いて、自分にあったものを見つける。
- ・ 英字新聞は、日刊のものより週刊のものから始めるとよい。
- ・ 会話は、間違いを恐れずに積極的に話そう。

など。

田中先生から、自分にあった方法で楽しみながら続けることが上達の秘訣と教えてもらいました。

Never too old to learn. を信じて Keep studying. したいと思います。

大坪健夫

秋の親睦旅行

川越 - セーレム親善協会主催の親睦旅行を企画しました。日時は、9月15日(祝日・土) 中型バスを借り切って、川場村でぶどう狩りを楽しみ、会員同士の交流を深めませんか。普段、会の活動に参加していない方の参加も大歓迎です。

集合 9月15日(祝日・土) 午前8時、川越駅西口 午後7時解散予定

経費 1人10,000円(交通費、ぶどう狩り、食事代を含む)

最低催行人数 20人(人数が集まらないときは中止します)

申し込み 8月10日までに、事業部 斉藤尚 234 - 1159、佐藤 231 - 0467、小倉 233 - 0245、水上 244 - 7474へ

内容詳細、料金振込み方法などについては、申込者に別途案内します。

外国人の参加については、未定です。

上記親睦旅行が不成立の場合、10月以降に親睦イベントを計画する予定です。